

いたばし子どもワークショップ

第1回に参加してくれたみなさんへ

開催日

第1回:令和7年 7月 29日(火)

場所:人材育成センター(区役所2階)

参加者 計 14 人

小学生 9 人 中学生 4 人 高校生 1 人

当日のスケジュール

13:30	挨拶	15:30	まとめ・発表準備
13:35	職員によるプレゼン	16:10	グループワークによる発表
14:05	子どもによる投票	16:30	区長挨拶・質疑応答
14:30	感想・意見交換(グループワーク)	16:50	写真撮影・アンケート

当日の司会者

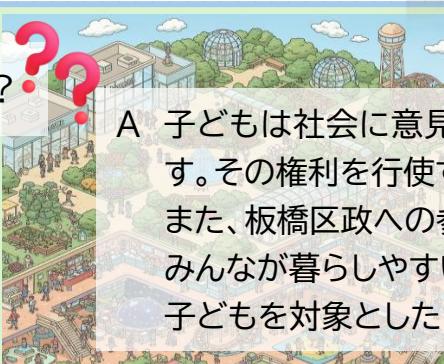
吉良克哉 (きら かつや) さん

プロフィール:舞台人として小劇場の演劇、ダンス、国立劇場でのオペラなど幅広く活躍するほか、イベントや式典ではMCとして活動し、進行ディレクター、舞台監督としての顔も持つ。Eテレ「はりきり体育ノ介」では博士役としても知られている。

いたばし子どもワークショップ



Q なぜ子どもの意見をきくの?



A 子どもは社会に意見を表明する権利を持っています。その権利行使する機会を確保するため、また、板橋区政への参加と施策への反映を図り、みんなが暮らしやすい板橋区をつくるため、子どもを対象としたワークショップを実施しました。

発表内容を元に生成 AI で作成したイメージ図



板橋区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

【1班】テーマ：こんな学校をつくりたい！(①教育総務課・新しい学校づくり課)

○ 職員のプレゼン内容

4. いま困っていること・課題

勉強や、先生、友達とのかかわりについて、あなたがこれからの学校に期待することは何ですか

- 1位 楽しく運動できるじゅぎょうや活動があること
- 2位 自分が自分らしく、友達と仲良いいられること
- 3位 じっさいに体験する時間がたくさんあること
- 4位 自分のきょうみのあることが学べること

出典：令和6年度子どもアンケート（板橋区）
区立小中学校1980名にアンケート（回答数1569人）

みんなが喜べるような学校にするためには、
どういった工夫をすればよいと思いますか。

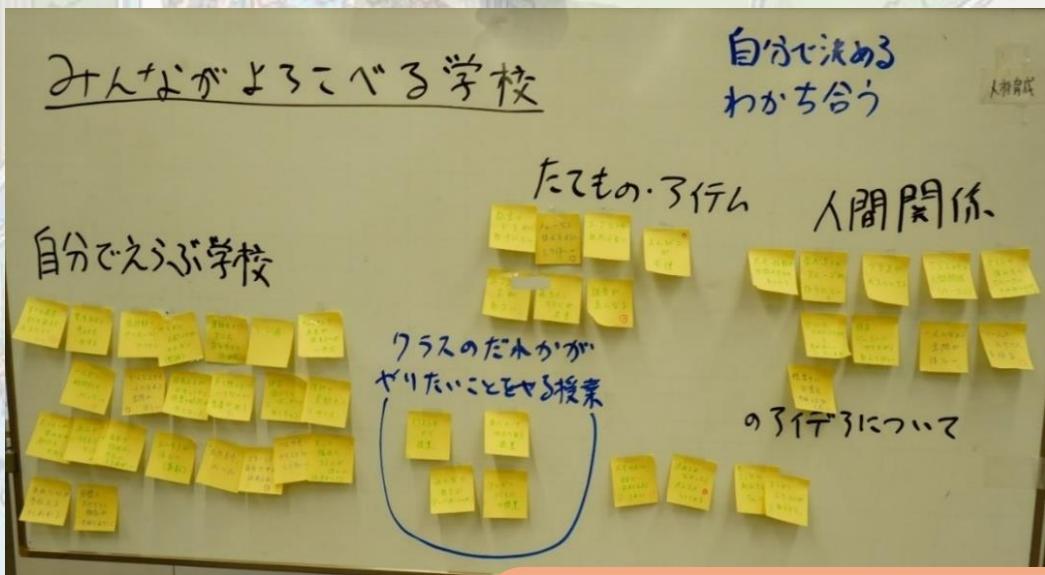


いちばん「応援したい」と
思った投票結果

第3位！



○ 話し合った内容



- ・自分で勉強を進めたい、何を学ぶかを選びたい
- ・一人ずつ時間割をつくる
- ・運動会のダンスを自分たちで決めたい
- ・1人になれる空間がほしい

○ 発表内容



いまの学校に対する「もう少し工夫してほしい」「こうなったらいいな」という意見がたくさんでした。

その中で大事なキーワードとなったのが「自分で決める、わかつ合う」です。大人や学校の先生から「こうしなさい」と言われてやるのではなく、自分の意志で決めると。

人それぞれいろんな考え方がある、その違いを認めて受け入れるといった「わかつ合いの時間」を作っていくことが『みんながよろこべる学校』につながるのではないか?という結論になりました。



○ これからの板橋区

ワークショップを通じて、子どもが、安心感を持ちながら、自ら考えて選択し、行動したいという強い思いを持っていることを理解することができました。

いただいたキーワードはそれぞれ、現在策定中の「MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035-」、「MIRAI SCHOOL いたばし -学校施設づくり2035-」において反映させました。

○「自分の意志で決める」

→「教育を通して、学ぶ喜びや成長する喜び、多様な他者とつながる喜びを感じる中で、人生の選択肢が広がります。この豊かな選択肢の中から選び取ることで、一人ひとりが自分らしい人生を歩むことができます。」と記載しました。

○違いを認めて受け入れる「わかつ合い」

→これからの教育でめざす姿「5つのチカラ(M・I・R・A・I)」の「I(Inclusion)」は「違いを認める」状態を表しています。私たちは、違いを認め、つなぐ・つながる・つなげることを基本的な考え方の一つとして反映させました。

「MIRAI SCHOOL いたばし」の実現に向けて、「自分で選ぶ、決める」機会を増やし、自分と異なる考え方を持つ人と良好な関係を築きながら、一人ひとりが自分に合った選択をする力をはぐくむ教育を進めていきます。

【2班】テーマ:魅力的な駅前広場をつくりたい(②地区整備課)

○ 区職員のプレゼン内容

4. いま困っていること・課題

新しい上板橋駅前広場のイメージ図



新しい板橋駅前広場のイメージ図



みなさんはどんな駅前広場だったら、行ってみたいと思いますか??

子どもたちの
意見・要望が
足りない…

いたばし子どもワークショップ

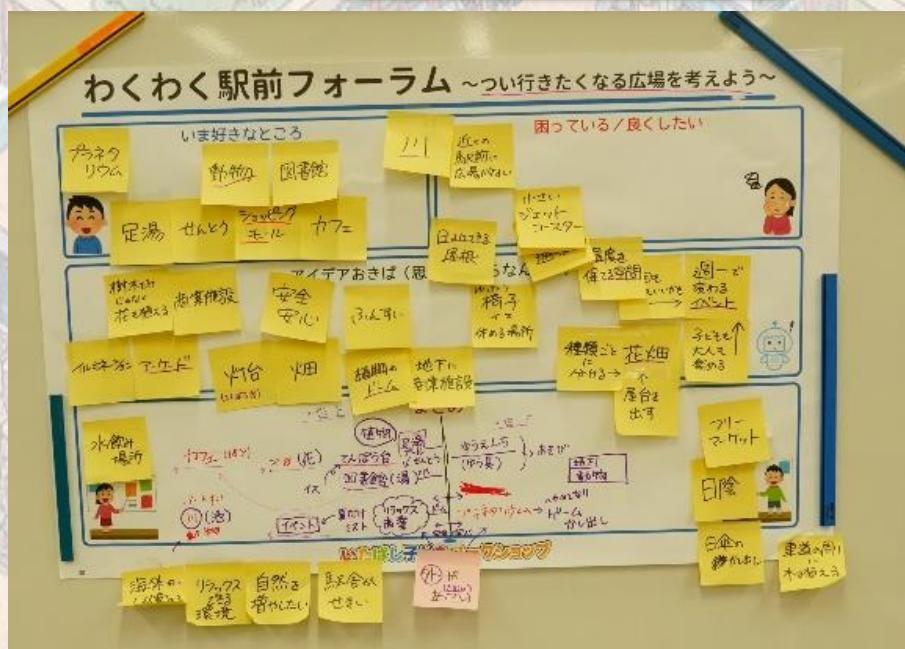
いちばん「応援したい」と
思った投票結果

第1位!

私たちはこの
テーマで話し合
うよ!

○ 班で話し合った内容

- ・図書館、ショッピングモール、カフェなどの施設
- ・屋台、フリーマーケットなどのお店の出店
- ・畑、花壇の設置、植栽など、みどりの充実
- ・屋根、椅子、ミスト、水飲み場
(ゆったり休める場所)
- ・週一で変わるイベント、イルミネーション



○ 発表内容

みんなのやりたいことや好きなものをたくさん盛り込みました。

まず地上には植物や噴水、足湯などのリラックスできる環境と商業施設があり、

広場では夏祭りやフリーマーケットなどのイベントが週替わりで開催！

商業施設にはショッピングモールやカフェなどがあり、快適さと便利さ、新鮮さを環境面にも配慮して作ります。

続いて地下には、遊園地や遊具をはじめとした、遊びのスペースが広がります。

プラネタリウムやゲームの貸し出しなどもあると良いです。

もし実現できたらとても楽しい駅前広場になると思います。



○ これからの板橋区

新しい上板橋駅前広場のイメージ図



今回、子どもたちからもみどりの充実や休める場所といったリラックスできる環境を求める声が多くありましたので、引き続きみどり豊かな駅前広場を目指して取り組んでいきます。ショッピングモールなどの施設、楽しい駅前広場についても関係事業者等と意見交換をし、イベントの開催などは活動主体となるエリアプラットフォーム(活動団体)の構築に取り組みます。

実現に向けては多くの制約がありますが、様々な制度の活用や事業のやり方を検討しながら、事業を進めていきます。

新しい板橋駅前広場のイメージ図



【3班】テーマ：板橋の産業の魅力を知つてもらうには？(③産業振興課)

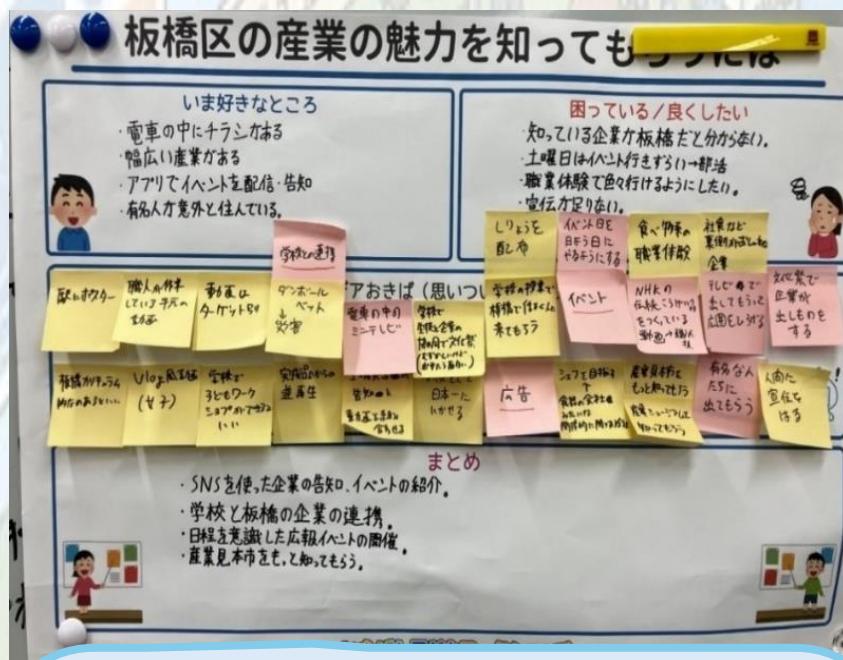
○ 区職員のプレゼン内容



いちばん「応援したい」と
思った投票結果
第2位！！



○ 班で話し合った内容



- ・駅の看板で宣伝する
- ・SNSで発信（インスタで特集など）する
- ・職人の手元アップとかショート動画が見やすい
- ・飽きないよう視覚的にわかりやすく、職人の様子、行程を見せる等、因果関係がわかるとよい
- ・部品がどこに使われているか、逆再生とか面白い
- ・移動教室みたく工場見学に行きたくなる動画をつくる
- ・Vlogのようにおしゃれな動画で興味を引く
- ・対象年齢別の動画や学校を通し企業のことを伝える

- ・会社の人が授業で話す
- ・職業体験で行くところが限られている
- ・私立中で職業体験がなかつた
- ・子どもワークショップを学校でやる
- ・文化祭に近隣の会社の人も出展してもらう
- ・中央図書館のサイネージの活用
- ・板橋区だけではなく、近隣の区にもPRする



○ 発表内容

産業の魅力について知る前に、区内にどのような企業があるのかを、そもそも知らなかつたので、区内企業の認知度をあげる必要があるという意見が多く上りました。

認知向上の手段としては、SNSでの発信をはじめとして、「文化祭や、職業体験など学校との連携を増やして、学生が知る機会を増やす。」「イベントは特定の曜日ではなく、開催日が複数ある方が参加しやすい。」「産業見本市をもっとたくさん的人に知ってもらう。」など、様々な側面からの意見となりました。



○ これからの板橋区



○区内企業の認知度向上について…

→ 現在策定中の「板橋区産業振興構想2035」において、次世代を中心とした区民と区内産業の距離を縮めるために、「区民が区内産業に共感する原体験となるにぎわい機会の創出」や「将来の区内産業を担う児童・生徒・学生を育てる次世代教育」を施策に盛り込む方向で検討を進めています。

○職業体験の選択肢を増やすために…

→ 学校とも連携し、色々な職業を体験できる機会を提供できるよう検討します。

○産業見本市をもっとたくさん的人に知ってもらうには…

→ 昨年に続き、今年も区民・子ども向けの開催日を設け、周知の工夫に取り組んだ結果、たくさん的人に来場してもらいました。来年以降も、もっとたくさんの子どもたちに関心を持ってもらえる内容を企画していきます。

いただいた意見をもとに、今後も産業の魅力を知ってもらうための検討を続けていきます。

最後に

いたばし子どもワークショップにご参加いただき、ありがとうございます。

小学生から高校生まで、いろんな子どもたちが集まってくれて、大変嬉しく思っています。

この子どもワークショップは、子どもの目線で、自分たちに関わることについて、みんなで考え、意見を出し合う機会です。

板橋区は、子どもたちの声を聴き、意見を大切にしたいと考えています。これまで、子ども・子育ての安心・安全を第一に考え、あいキッズや、こども動物園、ボローニャ絵本館など、ほかのまちにはない取組を進めてきました。

これからも、皆さんの意見を尊重し、もっともっと、板橋区を良くしていきたいと思いますので、皆さんも一緒にたくさん勉強していきましょう。

板橋区の10年後のめざすまちの姿は「未来をひらく緑と文化のかがやくまち“板橋”」です。どんなことに取り組んでいくか、皆さんからいただいた意見も参考に、計画をつくっていますので、楽しみにしていてください。

10年後は、ここにいる皆さんも全員が大人です。ぜひ、今日の意見を忘れずに、立派な大人になってください。

そして、大きくなったら、次の子どもたちに教えられるようになって、一緒に板橋区を「東京で一番住みたくなるまち」にしていきましょう。

令和7年12月

板橋区長

坂本 健



いたばし子どもワークショップ

第2回に参加してくれたみなさんへ

開催日

第2回:令和7年 8月6日(水)

場所:アトリエ・バンライ(サンシティ)

参加者 計22人

小学生16人 中学生3人 高校生3人

当日のスケジュール

13:30	挨拶	14:40	感想・意見交換(グループワーク)
13:35	区長からのビデオメッセージ	15:40	まとめ・発表準備
13:45	職員によるプレゼン	16:20	グループワークによる発表
14:15	子どもによる投票	16:50	写真撮影・アンケート

当日の司会者

吉良克哉 (きら かつや) さん

プロフィール:舞台人として小劇場の演劇、ダンス、国立劇場でのオペラなど幅広く活躍するほか、イベントや式典ではMCとして活動し、進行ディレクター、舞台監督としての顔も持つ。Eテレ「はりきり体育ノ介」では博士役としても知られている。

いたばし子どもワークショップ



Q なぜ子どもの意見を聞くの?



A 子どもは社会に意見を表明する権利を持っています。その権利を行使する機会を確保するため、また、板橋区政への参加と施策への反映を図り、みんなが暮らしやすい板橋区をつくるため、子どもを対象としたワークショップを実施しました。

発表内容を元に生成 AI で作成したイメージ図



板橋区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

【1、2班】テーマ： いっしょに考えたい ユニバーサルデザインのこと(①障がい政策課)

○ 区職員のプレゼン内容



もっと多くの子どもたちに
ユニバーサルデザインを知ってもらうには
どうしたらよい?



いちばん「応援したい」
と思った投票結果

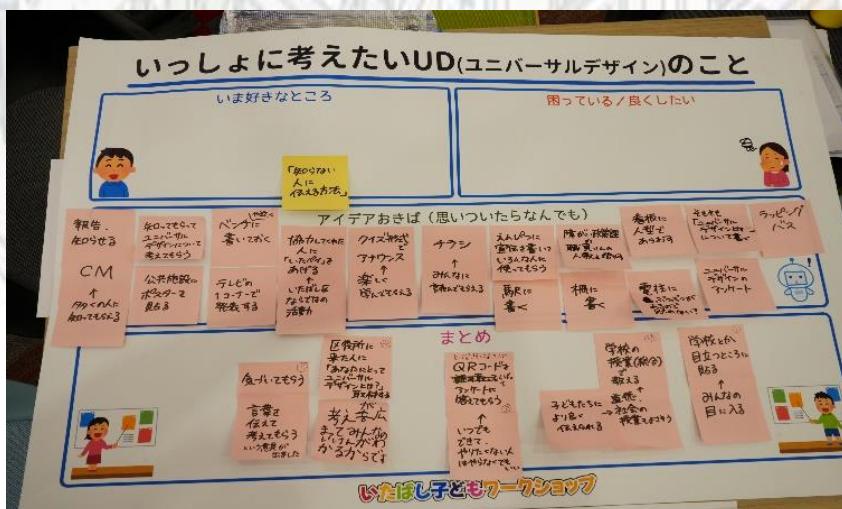
第3位!

○ 班で話し合った内容



1班

- ・子ども食堂や駅、塾に啓発チラシを配置する
- ・学校や図書館に啓発チラシを配る
- ・障がい政策課の職員数を増やす
- ・学校など多くの人の目に留まる場所にポスター等を貼る
- ・学校の授業（総合または道徳、社会など）で教える機会を増やす



2班

- ・テレビ等のコマーシャルで宣伝する
- ・区役所の来庁者にQRコード形式のアンケートを実施する
- ・区役所の来庁者にユニバーサルデザインの取材をする
- ・言葉を伝えて考えてもらう

○ 発表内容

貼り切れないほどのたくさんの意見が集まりました。

最終的に班で話し合い、5つの意見にまとめました。

- ①みんなの目に留まるので学校などの目立つ場所に(ポスターなどを)貼る
- ②学校の授業などで教える機会を増やす
- ③区役所を訪れた人にQRコードを配布して、アンケートを行う(いつでも出来て、やりたくない人はやらなくて良いから)
- ④役所を訪れた人に「あなたにとってユニバーサルデザインとは」とインタビューを行う→考えを広めて意見も集める
- ⑤(一人一人に)言葉を伝えて、考えてもらう



もっと多くの子どもたちに知ってもらうためには、(今ある)チラシをもっと多くの人に見てもらいたいと思いました。そのためには子どもが多く集まる場所、子ども食堂や塾、学校に配ったり、図書館に置いて手に取る機会を増やすと良いという意見がありました。また職員の人数が少ないので、もう少し増えた方が良いのではないかと思いました。



発表の場でこの5案に対して、大人も含めた来場者全員を対象にした挙手による投票を行ったところ、②「学校の授業で教える機会を増やす」がもっと多くの支持を得ました！

○ これからの板橋区



現在実施している、区職員が講師として小学校で行う出前講座は、係の人数が少ないとから実施回数の少なさが課題となっています。このため、今回行った投票で最も票を集めた「学校の授業で教える機会を増やす」という意見は、課題として認識しています。

現在策定中の「板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2035」において、『ユニバーサルデザインの「学び」の支援と、みんなでユニバーサルデザインを創る「しくみ」づくり』を指針の一つに掲げました。より多くの学校でユニバーサルデザインを学べる機会が増えるよう、さらなる工夫に取り組みます。

また、小中学校の授業で活用できるユニバーサルデザイン啓発動画を作成したりして、より多くの学校でユニバーサルデザインを教えられるような取り組みを進めていきます。

【3,5班】テーマ：こんな学校をつくりたい！（②教育総務課・新しい学校づくり課）

○ 区職員のプレゼン内容

4. いま困っていること・課題

勉強や、先生、友達とのかかわりについて、あなたがこれからの学校に期待することは何ですか

- 1位 楽しく運動できるじゅぎょうや活動があること
- 2位 自分が自分らしく、友達と仲良くいられること
- 3位 じっさいに体験する時間がたくさんあること
- 4位 自分のきょうみのあることが学べること

出典：令和6年度子どもアンケート（板橋区）
区立小中学校1980名にアンケート（回答数1569）

みんなが喜べるような学校にするためには、
どういった工夫をすればよいと思いますか。



いちばん「応援したい」
と思った投票結果

第2位！！

○ 班で話し合った内容

3班

- ・プレゼンの授業をしたい



意見を
まとめよう！



5班

- ・教科の先生に質問できる場所
がほしい
- ・リラックスできる場所がほ
しい
- ・自由に学びを深めることがで
きる授業をしたい
- ・教科教室型の授業も面白そう

○ 発表内容

学校で先生に意見を言うだけでなく、決まったことを実行してもらうための仕組み作りについて意見がでました。

- ・地域の大人がいる中で先生に意見を言える場があると良い
→証人や、ルールを守ってもらうため
- ・先生以外のフォローしてくれる大人がほしい
- ・みんなで先生に意見を言う会をやりたい

他、学習における環境面においても様々な意見や要望がでました。

- ・タイピングゲームなど良いアプリをブロックせず使えるようにしてほしい
- ・学校の授業や中休みの間に、ゲーム感覚でプログラミングやタイピングの勉強をやりたい
- ・夏は暑すぎて冬は寒すぎるので、快適な温度で勉強したい
- ・(教室の)扇風機が壊れているので、直してもらって暑さを乗り切りたい

自分たちが通っている学校にある程度満足しつつも、「こんな学校があったらいいな」という視点で話し合いました。大きなポイントは3点です。

①「リラックスした環境で学びたい」

友だちや仲間と一緒に人間関係を築きつつ、落ち着いた環境（カフェなど）でリラックスして学びたい。

②「一人ひとりが学びたい環境で学べる」

自分のめざしている職業体験や、見学での学びなど、一人ひとりが学びたい環境で学べるとより良くなると思う。

③「生活面をよりよくする」

給食でそれぞれ好きなものを食べたり、飲めたりできると良いと思う。

校内の移動でエレベーター・エスカレーターが使えると移動が楽になる。



○ これからの板橋区

ワークショップを通じていただいたキーワードはそれぞれ、現在策定中の「MIRAI SCHOOL いたばし - 教育ビジョン2035 - 」、「MIRAI SCHOOL いたばし - 学校施設づくり2035 - 」において反映させました。

○「リラックスした環境で学びたい」「学びたい環境で学べる」

→未来の学校づくりで重視する視点のなかで、「居心地の良い空間の導入」や「柔軟な学習環境の提供」を表現しました。

「MIRAI SCHOOL いたばし」の実現に向けて、これからの教育でめざす姿「5つのチカラ(M・I・R・A・I)」をはぐくむ教育を進めていきます。



【4, 6班】テーマ:大人になって輝けるまちを創るために(③都市計画課)

○ 区職員のプレゼン内容

みなさんへ未来を考えてもらいたい

板橋区として今考えていること

どんな“板橋”を目指すか
“板橋”のまちに必要なものは何か

どんな“板橋”で活躍したいですか

板橋の
好きなところ・変わってほしいところ
を教えてください。

いたばし子どもワークショップ



板橋区ってどんな
イメージだろう

いちばん「応援したい」
と思った投票結果

第1位!!!



○ 班で話し合った内容



4班

①板橋の好きなところ・良いところ

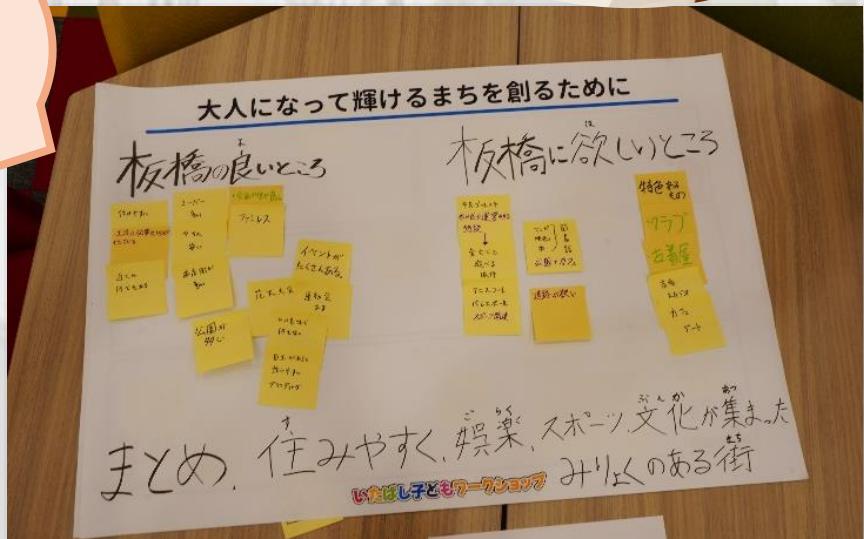
- ・子育てがしやすい
- ・住みやすい
- ・商店街が多い
- ・交通利便性が高い



6班

②板橋の直してほしいところ

- ・災害等への安全対策
- ・集中豪雨への対策
- ・狭い道路の解消



○ 発表内容

私たちの班は、まず自分たちの住む板橋を好きな気持ちが共有できました。そのうえで、より良くなって欲しいこととして、

- ①図書館・公園など、友だちと交流ができる、快適な場所を増やしてほしい。
- ②ゴミ箱の増設、トイレ清掃などにより、公共の場所をきれいにしてほしい。
- ③道路の補修、電灯の増設、休憩できるベンチの設置など、みんなが安全で快適に暮らせるようにしてほしい。



板橋はとても便利で住みやすいまちです。

ですが、格安で利用できるプールやテニスコートなどのスポーツ施設、中央図書館のようなマンガや本、映画が楽しめる施設、カフェや公園のある場所がもっと増えてくれると嬉しいです。

また区内にちょっとした楽しい場所が増えると、池袋や練馬へ行かずに地元で楽しめるので良いと思いました。これからの中の板橋が、今の住みやすい板橋の良さを残しながら、娯楽・スポーツ・文化が集まった魅力のあるまちになっていってほしいです。

そうなると板橋区外の人も（板橋区の人が、池袋や練馬に行くように）、板橋へもっと足を運んでくれるのではないかという意見にまとめました。



○ これからの板橋区

今回のワークショップでは、災害等への安全対策や集中豪雨への対策など、安心安全に対する意見に加え、友だちと交流ができる快適な場所、娯楽やスポーツなどの活動ができる場所を増やすことで、魅力のあるまちになってほしいという意見を頂きました。これらのご意見は、まちづくりにおいて重要な要素であり、大切な視点だと考えています。

区では現在、総合的なまちづくりの方針を示す「板橋区都市づくりビジョン」の改定作業を行っています。その中では、分野別の方針として、「都市デザイン」、「グリーンインフラ」、「道路・交通」、「住環境・くらし」、「安心安全」の5つの方針があり、災害・環境変化に対応できるまちの整備を図るとともに、板橋らしい風景づくりに取り組むことで、魅力あるまちの創造をめざしていく予定です。みなさんから頂いたご意見を踏まえ、全ての人たちが住みやすいまちになる計画となるよう取り組んでいきます。



最後に

いたばし子どもワークショップにご参加いただき、ありがとうございます。小学生から高校生まで、いろんな子どもたちが集まってくれて、大変嬉しく思っています。

この子どもワークショップは、子どもの目線で、自分たちに関わることについて、みんなで考え、意見を出し合う機会です。

板橋区は、子どもたちの声を聴き、意見を大切にしたいと考えています。これまでも、子ども・子育ての安心・安全を第一に考え、あいキッズや、こども動物園、ボローニャ絵本館など、ほかのまちにはない取組を進めてきました。

これからも、皆さんの意見を尊重し、もっともっと、板橋区を良くしていきたいと思いますので、皆さんも一緒にたくさん勉強していきましょう。

板橋区の10年後のめざすまちの姿は「未来をひらく緑と文化のかがやくまち“板橋”」です。どんなことに取り組んでいくか、皆さんからいただいた意見も参考に、計画をつくっていますので、楽しみにしていてください。

10年後は、ここにいる皆さんも全員が大人です。ぜひ、今日の意見を忘れずに、立派な大人になってください。

そして、大きくなったら、次の子どもたちに教えられるようになって、一緒に板橋区を「東京で一番住みたくなるまち」にしていきましょう。

令和7年12月

板橋区長

坂本 健



いたばし子どもワークショップ

第3回に参加してくれたみなさんへ

開催日

第3回:令和7年 8月27日(水)
場所:板橋区立グリーンホール(6階会議室)

参加者 計12人

小学生10人 中学生1人 高校生1人

当日のスケジュール

13:30	挨拶	14:40	感想・意見交換(グループワーク)
13:35	区長からのビデオメッセージ	15:40	まとめ・発表準備
13:45	職員によるプレゼン	16:20	グループワークによる発表
14:15	子どもによる投票	16:50	写真撮影・アンケート

当日の司会者

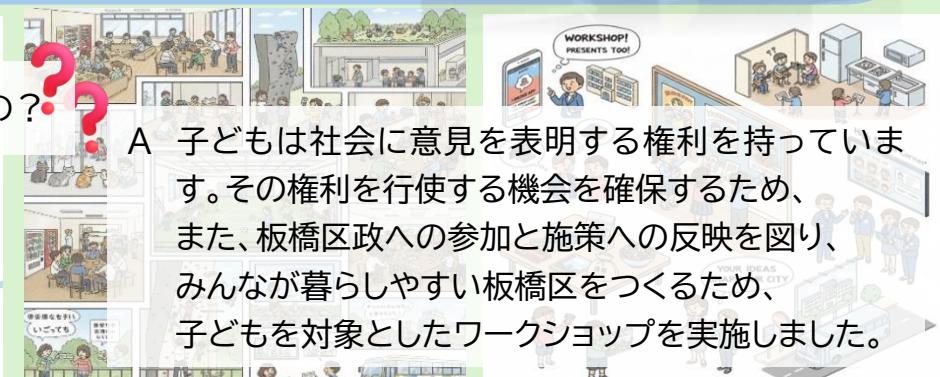
吉良克哉 (きら かつや) さん

プロフィール:舞台人として小劇場の演劇、ダンス、国立劇場でのオペラなど幅広く活躍するほか、イベントや式典ではMCとして活動し、進行ディレクター、舞台監督としての顔も持つ。Eテレ「はりきり体育ノ介」では博士役としても知られている。

いたばし子どもワークショップ



Q なぜ子どもの意見を聞くの?



A 子どもは社会に意見を表明する権利を持っています。その権利行使する機会を確保するため、また、板橋区政への参加と施策への反映を図り、みんなが暮らしやすい板橋区をつくるため、子どもを対象としたワークショップを実施しました。

発表内容を元に生成 AI で作成したイメージ図

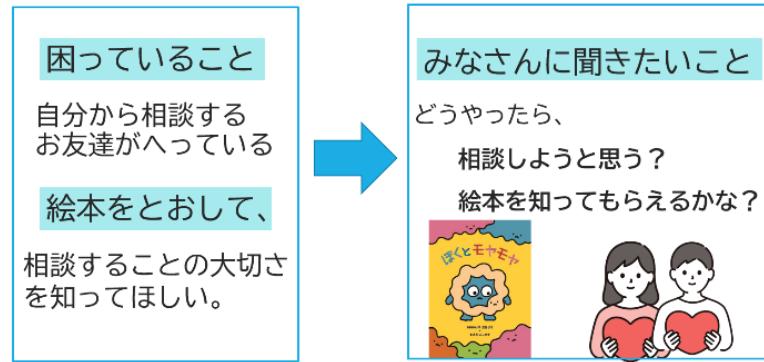


板橋区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

【1班】テーマ：絵本で広めたい、相談する大切さ(①健康推進課)

○ 区職員のプレゼン内容

4. いま困っていること・課題



○ 班で話し合った内容

みんなで
考えよう！



【なぜ相談しないのか】

- ・誰にも言いたくない、内緒にしたい、ばれたくないから
 - ・相談したときに「あなたも悪いところがあるのでは」と言われた経験がある
 - ・(悩んでいる)自分が悪いと思うから
- 【相談したいと思う環境にするには】
- ・LINEで聞く
 - ・学校の掲示板・ポスター
 - ・学校のアンケートに困ったことを書く
 - ・相談したらゲームできる時間が増える
 - ・気軽に相談できる人が街に立っている
 - ・定期的に電話がくる

いちばん「応援したい」と思った投票結果

第2位！！

【絵本の認知度をあげるには】

①事業活用

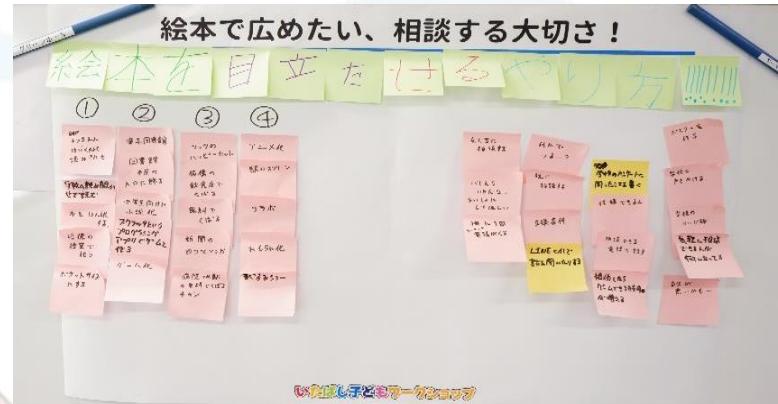
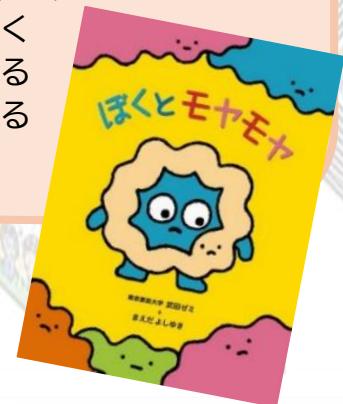
- ・幼稚園・保育園・学校での読み聞かせや授業での活用
- ・図書館や本屋の新刊コーナーやポップをつけて目立たせる

②絵本の形を変えて周知

- ・多言語に翻訳
- ・ポケットサイズにする
- ・小説化やアニメ化
- ・おもちゃ化
- ・ゲーム化

③不特定多数へ配布

- ・飲食店、病院や駅でチラシを配る



○ 発表内容



- ・絵本「ぼくとモヤモヤ」を広めるには、どうすればよいか？
- ・相談しやすい環境を作るには、どうすればよいか？について考えてみました。
- 絵本を広めるにあたっては、4つのステップで進めるという意見がでした。
- ① 学校で読み聞かせ、翻訳版を作る、道徳の授業で使う、ポケット版を作る
- ② 電子版、図書館・書店の入り口に飾る、中学生向けにノベライズ、ゲーム化
- ③ マクドナルドのハッピーセットにする、飲食店で配布、新聞で4コママンガを連載、病院や駅でチラシを配る
- ④ アニメ化、駅貼り広告、コラボ企画、おもちゃ化、着ぐるみショー



○ これからの板橋区

みんなの声をきいて、子どもたちが「相談すること」やストレス対処能力に関する知識を身に着けることは大切だと感じました。現在策定中の「いのちを支える地域づくり計画2030」において最重点施策として「子ども・若者への支援」を掲げ、その事業として、子どもに寄り添うこころの絵本『ぼくとモヤモヤ』の活用を推進します。区立小学校図書室や区立図書館等に配架するほか、区のイベント等で活用することにより普及・啓発を図ります。また、区立小学校の授業で活用するなど教育委員会事務局とも連携していきます。

今回の子どもワークショップでいただいた貴重なご意見を踏まえ、心の健康に関する周知・啓発に努めていきます。

たくさん意見が集まったね！



【2班】テーマ：中高生の居場所をつくりたい（②生涯学習課）

○ 区職員のプレゼン内容

4. いま困っていること・課題

みんなの考える“いごこち”がいい場所を知りたい！



自由な時間に何がしたい？



ひとりで？



どういう場所に行きたい？

友達と？



あると嬉しいものは？

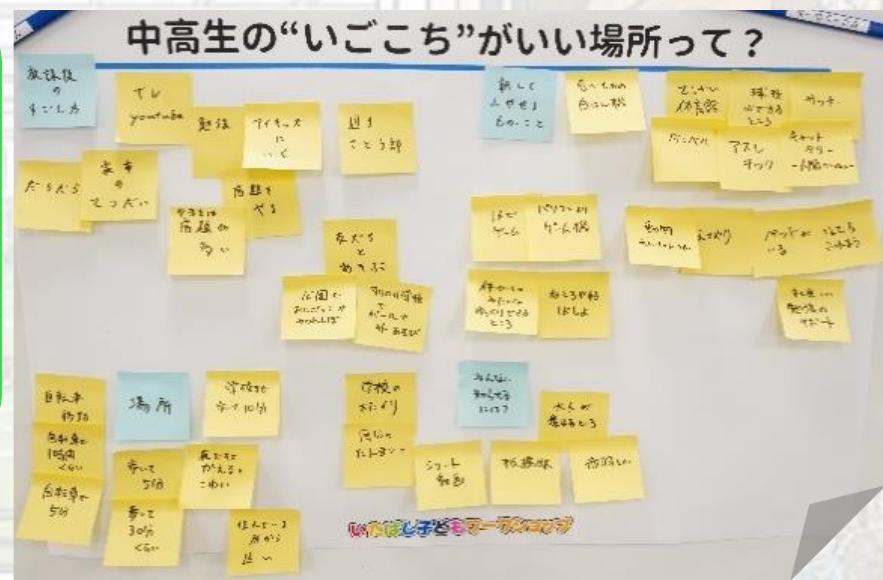
いちばん「応援したい」
と思った投票結果
第1位！！！



○ 班で話し合った内容

①放課後の過ごし方について

- ・だらだら過ごす
- ・家事の手伝い
- ・宿題をやる
- ・あいキッズに行く
- ・友達と遊ぶ
- ・公園でおにごっこや
かくれんぼ
- ・小学校でボールや外遊び



②i-youth にあると良いもの／ したいこと／してほしいこと

- ・体育館、球技ができるところ
- ・アスレチック
- ・人間版キャットタワー
- ・一人でゲームができる
- ・勉強のサポートをしてくれる
- ・動物と触れ合える
- ・休憩室のようにゆっくりできる、寝転
がれる場所

③i-youth の立地について

- ・自転車で行ける場所（5分～1時間）
- ・歩いて行ける場所（5分～30分）
- ・夜遅く帰ると怖い

④みんなに知らせるためにはどうした らよいか

- ・学校のおたより
- ・小・中学生の端末たんまつに情報発信
- ・ショート動画で発信
- ・板橋駅や赤羽など人がたくさん集ま
るところで周知

○ 発表内容

中高生にとって“いごこち”がいい場所として、放課後の過ごしかたと、i-youthについて意見を出し合いました。

放課後の過ごしかた

勉強をする、自宅ですごす、外遊びの3種類に分かれました。

放課後はみんな自由な時間を過ごせている印象です。

i-youthに新しく増やしたいモノ、コト

i-youthにあれば“いごこち”がよくなると思うものについて、

・食べ物・身体を動かせる場所・ゲーム・動物・くつろげる場所・勉強のサポートの6点が意見としてあがりました。

i-youthに通いやすい距離

1時間でも大丈夫という人もいれば、5分以内という人もいました。

人によって大きく違うようです。

みんなにもっと知ってもらうには

学校からおたよりや、生徒の^{たんまつ}端末に伝える、SNSのショート動画で紹介する、

赤羽など大人が集まる場所でチラシを配るといった意見がでました。

○ これからの板橋区

今回のワークショップを通して、子どもたちが放課後にどのように過ごしているのか、どのような居場所を求めているのかを知ることができました。

i-youthに関して、現在策定中の「いたばし子ども・若者・子育て応援プラン 2030」において、中高生・若者の居場所・支援機能の充実を検討することとしています。

ワークショップでみなさんからいただいた意見を参考に、i-youthの今後の機能充実について、検討していきます。

たくさんアイデア
がでたね！



【3班】テーマ:子ども・若者に区政の情報を届けたい(③子ども政策課)

○ 区職員のプレゼン内容

若者枠の会議の
委員募集
区と六大学連携している大学も
あるけれど、周知の
ハードルが高い

子どもワークショップ
区の公式LINEやX（旧ツイッター）
や板橋区内の中学校・高校にチラシを
配り周知したけれど、
中高生が集まりづらい

困っています…例えば

ヤングケアラー啓発動画
学校にたくさんのチラシを配布
して、見てもらったけれど、
学校に通えていない子は、
見ていないかも



どうしたら
いいかなあ…

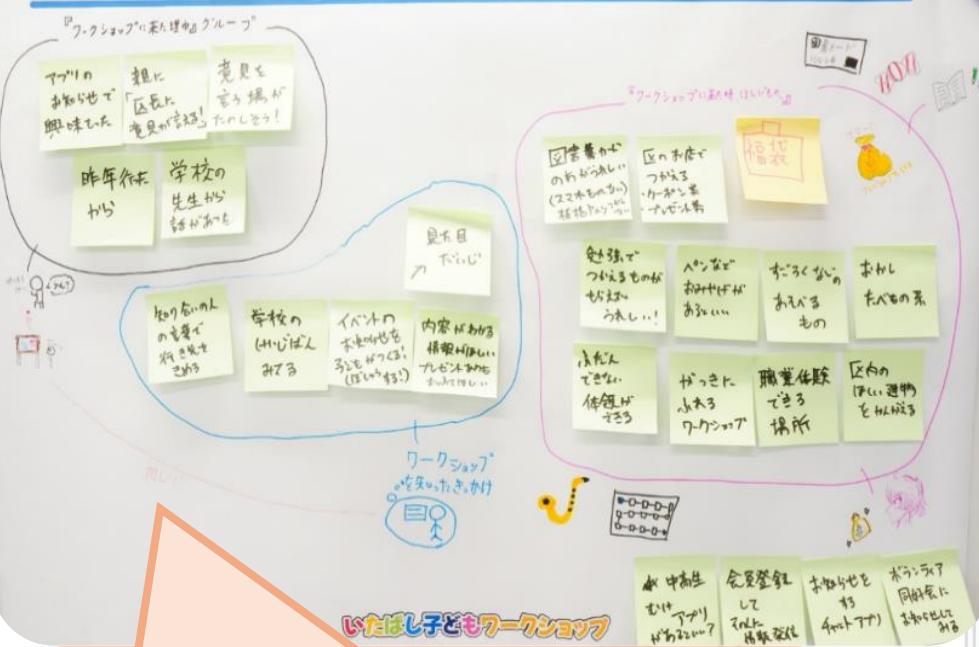


いちばん「応援したい」
と思った投票結果

第3位！

○ 班で話し合った内容

子ども・若者に区政の情報を届けたい！



みんなは
どう思う？

- ・学校内に自分たちがつくった区の行事のポスターを掲示する
- ・学校のボランティア同好会にお知らせをお願いする
- ・子どもが誰でも意見を言え、大人が聞いてくれる場であることを知ってもらう
- ・普段学校ではできない体験（職業体験など）と一緒に実施し、きてもらう
- ・参加すると、筆記用具や区内のお店で使えるクーポン券がもらえる



○ 発表内容

区政の情報を子ども・若者に届けるにあたり、自分たちがどのように今回のワークショップを知り、参加することにしたのかについて話し合いました。

ワークショップを知ったきっかけ

人にすすめたり、学校内の掲示板を見て知った。

どんな内容か事前に情報があると良い。

ワークショップに来た理由

アプリのお知らせで興味を持ったり、学校の先生に教えてもらったりと、

学習面での興味から参加している人も多い。

参加してもらえると嬉しいもの

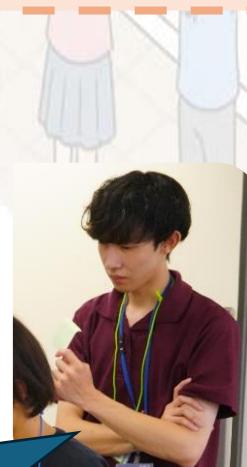
図書カードや区のお店でつかえるクーポンや、学用品、おかしなど実用的で、使いやすいものだと嬉しい。

高校生の目線として

受験をテーマにしたチャットアプリなどを作り、その中で告知する。

会員登録をしてくれた人に向けてワークショップなどを開催する。

ボランティア同好会などに優先して声をかける（地域や世の中への関心が高いのでは？）。



○ これからの板橋区

現在策定中の「いたばし子ども・若者・子育て応援プラン2030」において、「子ども・若者の声を聴く仕組みと区政参加の推進」を主要施策の一つに掲げました。子どもたちが板橋区に対して「関わり続けられる」場としてワークショップを認識してもらうように、年齢や興味関心にあわせた情報発信を行います。例えば、子どもたちが作成したイラストを活用し楽しさを伝える、中学生・高校生向けはSNSなどを活用し参加のハードルを下げる、ワークショップの様子がわかる動画の配信を行うなど、新たな周知方法を検討します。

そして、子どもが自ら意見を述べたくなる環境をつくることで、ワークショップの価値を多くの人に伝えられるよう取組みます。

また、「子どもワークショップ」専用ホームページにて周知動画を公開するなどの仕組みづくりを目指し、積極的に情報発信に取り組みます。

最後に

いたばし子どもワークショップにご参加いただき、ありがとうございます。小学生から高校生まで、いろんな子どもたちが集まってくれて、大変嬉しく思っています。

この子どもワークショップは、子どもの目線で、自分たちに関わることについて、みんなで考え、意見を出し合う機会です。

板橋区は、子どもたちの声を聴き、意見を大切にしたいと考えています。これまでも、子ども・子育ての安心・安全を第一に考え、あいキッズや、こども動物園、ボローニャ絵本館など、ほかのまちにはない取組を進めてきました。

これからも、皆さんの意見を尊重し、もっともっと、板橋区を良くしていきたいと思いますので、皆さんも一緒にたくさん勉強していきましょう。

板橋区の10年後のめざすまちの姿は「未来をひらく緑と文化のかがやくまち“板橋”」です。どんなことに取り組んでいくか、皆さんからいただいた意見も参考に、計画をつくっていますので、楽しみにしていてください。

10年後は、ここにいる皆さんも全員が大人です。ぜひ、今日の意見を忘れずに、立派な大人になってください。

そして、大きくなったら、次の子どもたちに教えられるようになって、一緒に板橋区を「東京で一番住みたくなるまち」にしていきましょう。

令和7年12月

板橋区長

坂本 健

